

物部川エリアにおける SUP 事業を中心とした
地域活性化に関する一考察

1230432 岡本竜明

指導教員：中村直人

高知工科大学 経済・マネジメント学群

・研究背景

私は現在（2023年2月時点）高知県香美市の物部川で、高知 sup&surf という事業者名で SUP 施設を運営しており、資金支出以外の経営活動のほとんどを行っている。そこで、研究活動と事業活動を上手くリンクさせれば、常に生のデータを取りながらフィードバックを重ね、とても深い学びになると考えた。そして研究を深めながら事業者としてのスキルを高め、提供するサービスの質も高める。そうすると、事業活動に関わる全ての方に、より良いサービスを提供できるようになると考えた。これが研究背景である。

・研究目的

豊かな自然を持ちながら、その自然を活かしきれていない物部川エリアで、地域に寄り添った観光振興を目指し、SUP 事業を中心とした観光業による地域活性化の可能性を考察し、実践に移す。

・調査・分析方法 文献調査とヒアリング調査

・分析結果

文献調査では、国内の旅行形態はコロナ禍を経て、「少人数化」「近隣化」の傾向があり、旅行者は「地域との深い繋がり」「第二の故郷」を旅先で求めていることがわかった。高知県の観光動向においても、近隣地域から家族層の旅行者が多く、観光政策としては、高知の「暮らし」に重きを置いたサステナブルに重きを置いた観光政策に感じた。物部川エリアについては、家族層の旅行者が多く訪れており、家族層をターゲットに絞った観光戦略を展開していた。しかし、物部川エリアとしての魅力を活かしきれておらず、地域連携も行えていない。今後は地域の統合的な観光戦略が求められる。ヒアリング調査では、仁淀川で実際に起きている地域と SUP 業者の問題を取り上げた。そこで、SUP 事業を行う上での本質は「地域貢献」であることを学んだ。

・考察・結論

文献調査とアンケート調査により、観光業で地域を活性化させるためには、「地域貢献」「地域連携」が重要であることが分かった。

地域経営組織を中心に地域に合意形成を図り、観光業の意義を浸透させる。そして、地域のブランド化を行い、観光地域全体として観光戦略を立てていく。そうして観光地域として得られた利益や恩恵を、地域内のそれぞれに分配していく。つまり、統合的に観光戦略を立て、地域全体としての利益を、個々が享受するシステムを立てることが必要だと筆者は考察している。